

言葉あそび

お子さんによっては年少の頃（3-4 歳）になると、音韻分解や音節数の理解が進み、文字への興味が広がり始めます。

難聴児の訓練では、多くの「言葉あそび」の中で音韻分解・音節数・文字などが関連してきますが、「言葉あそび」はけして「お勉強」ではありません。よく健聴児が親子や友達と「しりとり」を楽しむ姿をみかけますよね？ ゲームや歌に取り入れ、楽しく取り組んで欲しいと思います。そして、難聴児にとって、「言葉あそび」は発音や言葉の整頓、表現力をつける意味でもとても重要なものといえます。

<初級編>

仲間あつめ

- ・ **上位概念・上位語**：さまざまな名詞を獲得し、表出し始めるとだんだんそれがどのカテゴリーに属しているかということにつなげていけます。
 - ◇ 動物・鳥・虫・食べ物・飲み物・果物・野菜・乗り物 など
- ・ **語の想起**：仮に「にんじんは野菜」「りんごは果物」のように分かっている、「野菜の名前をたくさん言おう！」というようなことは難しいことがあります。セラピーではセラピスト・親御さん・子どもが順番に言いつこをしたり、お店屋さんごっこをしたり、歌（♪やおやのお店）などを使って仲間集めを楽しみます。
 - ◇ 野菜の仲間：人参・玉ねぎ・じゃがいも・トマト・きゅうり など
- ・ **知識・表現**：「カテゴリー」がしっかりしてくると「りんごとバナナは果物だけど、大根は野菜」のように何が違うか、という仲間はずれも楽しめるようになります。このようなやり取りの中で「～だけど」というような表現も覚えていきます。
 - ◇ ぶた・ねこ・トマト（これだけ「野菜」だから仲間はずれ）

なぞなぞ

- ・ **語の説明**：言葉が増えてくると、名詞（言葉そのもの）を言わずに、その物の特性（色・形など）などを説明することが上手になってきます。上位概念を理解し始めると、それを使ってさらに説明がうまくなってきます。
- ・ **形容詞による説明**：最初は、「赤くて丸い果物」のような簡単ななぞなぞから始めます。
- ・ **関連する道具や動詞による説明**：慣れてきたお子さんには「楽器の仲間でバチを叩いて音を出すよ」のように難しいものにしていきます。
- ・ **YES/NO クイズ**：自分ではまだ上手に「なぞなぞ」が出せないお子さんには「はい」「いいえ」で答えられるような形で少しずつ言葉の特性を聞くことに慣れていきます。最初はセラピストが質問をし、お子さんが「はい、〇〇です」と答える

形から始め、役割交代をして今度はお子さんがセラピストに「それは〇〇ですか？」と聞きます。

【例】 それは、果物ですか？→はい、これは、果物です・それはオレンジ色ですか？→いいえ、オレンジ色ではありません・それは赤いですか？→はい、これは赤いです・それは皮をむいて食べますか？→はい、これは皮をむいて食べます・それはリンゴですか？→はい、リンゴです！

☆ 上記のようなやりとりがしっかりでき始めると自分で「これは赤くて丸い果物で、皮をむいて食べます。なーんだ？」のように「なぞなぞ」になっていきます。

☆ さらに年中の後半から年長になり知識や語彙が豊富になると、より「言葉あそび」の要素が強い「なぞなぞ」のやりとりが可能となっていきます。

【例】 畑にいるのは何人ですか？→にんじん

反対ことば

- ・ **形容詞・動詞**：「高いの反対は？」「低い」という質問に答えられるようになるだけでなく、「そうは大きいけど、ねずみは小さい」のような表現も覚えていきます。



＜中級編＞

言葉しりとり

- ・ **形容詞から語を想起**：上位概念や言葉を説明する能力が十分ついてくると言葉しりとりも楽しめるようになります。

【例】 さよなら三角またきて四角、四角はなあに？→ 四角は豆腐、豆腐はなあに？→ とうふは白い、白いはなあに？→ 白いは雪、雪はなあに？…

音はいくつ？

- ・ **音韻分解**：リトミックなどで音の数を数えることは、まだ十分に言葉の音韻分解ができなくても楽しめますが、文字が入り始める頃になると言葉にいくつの音が含まれているかということが理解しやすくなります。
- ・ **音節数**：2 語の言葉を集めたり（くま・くつ・はし）3 語の言葉を集めたり（らくだ・おかし）することを楽しみます。
 - ☆ 初期は、長音「ぼうし」、や促音「ばった」、撥音「ぱんだ」のような言葉は難しいのでこのような活動のときは扱わないようにします。
 - ☆ 1 文字の言葉は難しい語彙が多く含まれていますが、徐々に楽しむことができます。【例】 蚊・木・目・絵・火…など
 - ☆ 長い音節の言葉探しも楽しめます。（2 つの言葉を合わせたものもあります）
【例】 アメリカざりがに・あじさいまつり
- * マッピングでも T レベルの測定時に音の数を数え（カウンティング）させることがあります。耳鳴りと刺激音を見極めるためにも有効な手段です。

頭字あつめ

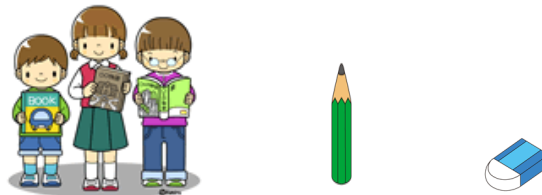
- ・ **語頭・語尾**：音韻分解ができるようになると語頭にどんな音がつくかということが分かってきます。同じ文字から始まる言葉集めを楽しんだりします。同様に最後に「ん」のつく言葉など同じ語尾の言葉を集めることもできます。

しりとり

- ・ **しりとり**：語尾の音もしっかり理解できるとしりとりを楽しめるようになります。

さかさ言葉

- ・ **音韻分解・聴覚記憶**：音韻分解がしっかりでき、音を把持できるようになると言葉をさかさに言うことを楽しめるようになります。導入では、自分の名前を書いてそれをさかさに読むことなどから始められますが、2音節語などから始めると聴覚のみでも楽しくさかさ言葉を扱えます。
- ☆ 逆にしても同じままの言葉や意味のある言葉などを集めることもできます。
- 【例1】肩（かた）→鷹（たか）、来た（きた）→滝（たき）
- 【例2】トマト→トマト、しんぶんし→しんぶんし、いかたべたかい？



<上級編>

特別音

- ・ **長音・促音・撥音あつめ**：初期は扱わない長音や促音、撥音も音節数や文字がしっかり入ってくると扱いやすくなります。
- ☆ 「おばあさん・おばさん」、「シーソー・しそ」のように長音とそうでないもので意味が異なる言葉を扱うこともできます。
- ☆ 「勝った・肩」、「そっと・外」のように促音とそうでないもので意味が異なる言葉も扱うことができます。
- ☆ 「ん」は後に続く音によって唇を閉じる場合と閉じない場合があります。「パンダ」のように後に破裂音が続く場合は唇を閉じて構音しませんが、「かんぱい」のように後に両唇音が続く場合は唇を閉じて構音します。
- ・ **外来語**：外来語には多くの特別音が含まれます。特別音の理解が進むと、カタカナで書く言葉についても楽しめるようになります。

熟語

- ・ **反対ことば**：語彙が豊富になってきたら、熟語も少しずつ扱うようにしましょう。
- 【例】出発・到着、集合・解散、開始・終了…

- ・ **同じ漢字のつく言葉**：お正月などに「初」のつく言葉あつめなどを楽しめます。
【例】 初もうで、初夢、初日の出…（「初」は初めてという意味ということを知る）

数詞

- ・ **数え方**：いろいろな物の数え方についても学んでいきます。実際に数え、不規則に音が変わる数詞についてや、他に同じ数詞を使う物には何があるかなどを話しあうことができます。
【例】 **不規則な数詞**：1 ぽん、2 ほん、3 ぽん、4 ほん、5 ほん、6 ぽん、7 ほん、8 ぽん、9 ほん、10 ぽん
【例】 **「本」と数える数詞**：細長い物 ＝ 鉛筆、瓶、煙突…

暗記

- ・ **暗唱**：簡単な詩や干支などを暗誦することも言葉あそびの1つです。健聴児であっても劇あそびで台詞を覚えたり、暗唱する経験はしているものです。
【例】 **干支**：鼠、牛、虎、う、竜、巳、馬、羊、猿、鳥、犬、猪

<その他>

絵本読みの中での言葉あそび

- ・ 台詞の書いていない、お話の台詞を考える。
- ・ 男言葉、女言葉、赤ちゃん言葉などに興味を持ち、話し方を真似して楽しむ。
- ・ 方言
- ・ 英語（初期は Happy Birthday、Thank you などから興味を持ち始める）
- ・ 歌（韻を踏んだ歌など）
☆ ♪カレンダーマーチ♪「いちがつ・いっぱい・ゆきよふれ／にがつの・にわには・ふくじゅそう／さんがつ・さむさに・さようなら…」
- ・ **ノタンシリーズ**：
☆ 「ノタン にんにん にこにこ」 音遊び
☆ 「ノタン ぱっぱら ぱなし」 ○○ぱなし
* ちらかしっぱなし・おきっぱなし・かけっぱなし・ながしっぱなし
☆ 「ノタン こちょこちょこちょ」 ○○じゃらし
* 他の動物なら何じゃらし？ お友達の名前なら何じゃらし？

